

たまきはる福島基金事業一覧

【H24年度】 (H25. 4. 1~H26. 3. 31)

年 月	主催団体・事業	参加者数	事 業 概 要
H24.9.20	「ベテランママの会」 代表 番場さち子 (南相馬市) 【放射能お話し会&相談会】	600名	南相馬市や南相馬市の避難している母親を対象に「放射能の正しい知識」「放射能にどう対応すれば良いか」などを東大医科研の坪倉正治医師等の先生を講師に招き、講演会、相談会を開催した。(H24年度 20数回開催) ホームページ【 veteranmama.jimdo.com 】
H24.12.5 H25.2.18	「ふくしまキッズ」実行委員会 委員長 進士 徹 (鮫川村) 【各種プログラムの実施】	1,342名	福島県で過ごしている家族にとって身体的メンタル面でも保護者の苦労は大変であり、その皆さんを支援するため、子供達を県内外の放射能の影響のない場所で各種プログラムを組んで現地に行き学習する。 (平成24年度 北海道、横浜、愛媛、長崎、熊本、福島県内ほか) ホームページ【 fukushima-kids.org 】
H24.12.20	田村ミバスケ実行委員会 委員 長 坂口 高志 (三春町) 【バスケット大会の実施】	50名	三春町に原発避難している葛尾村の父兄が、三春町において葛尾村の子供達が一堂に集まると共に地元三春町の子供達との親交を図るため、三春町においてバスケット大会を開催する。
H25.2.18	NPO法人「ハッピーロード ネット」 理事長 西本由美子 (広野町) 【作文集の刊行】	(執筆) 232 名	津波災害や原発により避難している双葉郡の中学生、高校生を対象にこれらの体験を今後の防災活動、防災教育の観点から後世に伝えていくことは重要であり、文章にまとめ冊子として刊行する。(冊子名「ふるさと」3,000部印刷) *現在、学校の道徳等の教材としても活用されている。 ホームページ【 happyroad.net 】
計	4件	2,224名	

【H25年度】 (H25. 4. 1~H26. 3. 31)

年月	主催団体	参加者数	事業概要
H25.4.3	(社)たまきはる福島基金 【蔵書の寄贈】	—	新潟県の柏崎公民館から、閉鎖に伴い不必要となった図書が寄贈されることになり、たまきはる福島基金を通じ榎葉町、葛尾村に蔵書8,000冊、本棚を寄贈。
H25.5.16	(社)たまきはる福島基金 【ドイツからの粉ミルク】	—	ドイツからの粉ミルクの寄贈の連絡があり、たまきはる福島基金を通じ、南相馬市立総合病院へ粉ミルク500g×40個を寄贈。
H25.8.29	「ふくしまキッズ」実行委員会 委員長 進士 徹 【各種プログラムの実施】	1,019名	福島県で過ごしている家族にとって身体的メンタル面でも保護者の苦労は大変であり、その皆さんを支援するため、子供達を県内外の放射能の影響のない場所で各種プログラムを組んで現地に行き学習する。 (平成25年度北海道、横浜、愛媛、長崎、熊本、福島県内ほか) ホームページ【fukushima-kids.org】
H25.8.29	NPO移動保育プロジェクト 理事長 上國料竜太 【移動保育】	1,200名	震災以降、福島県内の子どもたちは外遊びすらも制限された。自然豊かな故郷で子育てを楽しみ、親であることを楽しんでいただきたいという想いで自然散策、スポーツ体験などを通して新しい発見をしたり、屋外でのびのびとした活動を体験を通して子供の成長を手伝っている。(県内外への遠足の実施)・ ホームページ【idouhoiku.com】
H25.10.23	NPO子供プロジェクト 理事長 福田 恵美 【野球教室】	170名	福島では震災や原発事故で学校や校庭を失って、のびのびと身体を動かすことをできない子どもたちおり、福島県内から大型バス3台で県内避難している子供達を中心に110名、また東京に避難中のお子さまとご家族が約60名計170名の参加の下、H25.11.24明治神宮外苑のコブシ球場と室内競技場でヤクルトスワローズの選手が指導者となりキッズ・スポーツ・フェスタを開催する。 ホームページ【kodomo-project.com】【kodomo-project.com/?p=1088】
H25.12.3	かつらお子ども絆クリスマス会 かつらおむら村創造協議会	200名	震災事故以来子育て世代や若い世代を中心に村からの離散状態が継続しているため、「同郷としての繋がりを促進し、村民として復興や将来の葛尾への思い

	会長 下枝 浩徳 【クリスマス会】		の共有」を事業目的とし、三春町における借上住宅等で子供達への合同クリスマス会事業と絆活動を行う。 フェイスブック【ja-jp.facebook.com/Katsurao.Murazukuri.Kyogikai】
--	----------------------	--	--

年月	主催団体	参加者数	事業概要
H25.12.2	川内っ子育てる会 会長 秋元 正 【復興子ども教室事業】	9名	全村避難した川内村はH24年4月小中学校を再開しており、長崎大学の協力を得て、放射能の学習等を実施している。長崎の原爆からの復興に関して小学校の子供たちが現地視察研修を実施する。
H25.12.2	ゆめ・ざぶん賞福島実行委員会 委員長 荒 由利子 【ゆめ・ざぶん賞事業】	200名	全国レベルでの事業であり、水や海に関する知識を高め、命や自然の大切さを考えていくことを目的とする事業。 本県でも大震災や原発事故の被災を受けた福島の子供たちが、災害で経験した自然の脅威や不自由な生活経験から学んだものを創作文としてまとめおり公募されたものを評価・選定し賞を授与する。 (県内応募者480名) 【www.zabun.jp】
H26.2.4	飯舘村までい大使の会 代表 佐川 旭 【いいたて「までいの Rond」移動教室事業】	170名	飯舘村仮設小学校（川俣町）において学ぶ小学校高学年の子供たちを対象に、東京近郊に住む飯舘村サポーターズと交流会を開催するとともに、東京都神保町の学士会館で村の支援者への感謝のメッセージと復興の願いを込めた歌「ときよめぐれ（までいの Rond）」を披露する。 【blogs.yahoo.co.jp/koyama2870041/10856859.html】
計	9件	2,968名	

【H26年度】 (H26. 4. 1~H26. 10月現在)

年月	主催団体	参加者数	事業概要
H26.6.17	かつらお保護者会 会長 坂口 高志 【かつらお保護者会 体験交流事業】	16名	H25年度から避難先の三春町で葛尾小・中学校（三春校）が開設され、全児童の2割弱の生徒が登校している。平成27年度には葛尾村への帰還宣言が予想され、学校の再編が見込まれることから、同郷の友として学校は離れているが、交流会による絆活動により、心のケアに努める。（民宿宿泊による交流会）
H26.6.26	田村市岩井沢児童保護者会 会長 今泉 泉 【トークの会「みやこじ」 の開催】	30名	田村市都路地区に帰還して子育てしている方、また都路地区外に避難して子育てをしている方の子育て環境に不安や心配がある方が集まり、「子育て経験やアイデアをお互いに分ち合う場」を設定し、子育てを支援していくトークの会「みやこじ」を企画する。（講演会の開催、子供たちの絵本等）
H26.7.11	NPO子供プロジェクト 理事長 福田 恵美 【野球教室】	(200名)	福島では震災や原発事故で学校や校庭を失って、のびのびと身体を動かすことをできない子どもたちおり、福島県内から大型バス3台で県内避難している子供達を中心に110名、また東京に避難中のお子さまとご家族が約60名計170名の参加の下、H26.11.24明治神宮外苑のコブシ球場と室内競技場でヤクルトスワローズの選手が指導者となりキッズ・スポーツ・フェスタを開催する。 ホームページ【 kodomo-project.com 】
H26.8.19	「ふくしまキッズ」実行委員会 委員長 進士 徹 【各種プログラムの実施】	(1,000名)	福島県で過ごしている家族にとって身体的メンタル面でも保護者の苦労は大変であり、その皆さんを支援するため、子供達を県内外の放射能の影響のない場所で各種プログラムを組んで現地に行き学習する。 （平成25年度北海道、横浜、愛媛、長崎、熊本、福島県内ほか）ホームページ【 fukushima-kids.org 】
H26.9.16	川内っ子育てる会 会長 秋元 正 【復興子ども教室事業】	(20名)	全村避難した川内村はH24年4月小中学校を再開しており、長崎大学の協力を得て、放射能の学習等を実施している。長崎の原爆からの復興に関して小学校の子供たちが現地視察研修を実施する。

年 月	主 催 団 体	参 加 者 数	事 業 概 要
H26.9.26	NPO移動保育プロジェクト 理事長 上國料竜太 【移動保育】	(1,000名)	震災以降、福島県内の子どもたちは外遊びすらも制限された。自然豊かな故郷で子育てを楽しみ、親であることを楽しんでいただきたいという想いで自然散策、スポーツ体験などを通して新しい発見をしたり、屋外でのびのびとした活動を体験を通して子供の成長をお手伝っている。(県内外への遠足の実施) ホームページ【idouhoiku.com】
計	6件	(2,266名)	

以上